

e-dream-s 通信

No.55 発行：2005年4月10日 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

目次

- | | | |
|---------------------|------|------|
| 1. 歯がゆいコミュニケーション | 辻荘一 | p. 2 |
| 2. アメリカ現代用語の基礎知識(1) | 井川好二 | p. 4 |
| 3. いま、何時ですか？ | 中川房代 | p. 9 |
| 4. 米国で学んだ3つのships | 塚本美紀 | p.11 |
| 5. エイゴの夢は夜ひらく？ | 仙崎裕右 | p.13 |



韓国の小学校で使用している英語の教科書 山田昌子氏撮影

歯がゆいコミュニケーション

代表理事

辻 莊一

「大人は分かってくれない」という言葉が象徴するように人間誰しも若い頃は、自分を分かって欲しい、しかも自分に都合がいいように「理解」してほしいなどと考えがちだ。そもそも自分で自分の事も分かってないくせに図々しい話だが、ある程度年齢を重ねれば人と人が完全に理解し合うなんてことは不可能でありその不可能性を前提として、可能なかぎり最善のコミュニケーションを試みることが大事だと分かるようになる。

しかし、「完全に理解し合う」などという夢のようなことを考えず限定された範囲での理解で良いと諦めたとしても、コミュニケーションは難しい。中でも自分の経験を同じ経験のない人に分かってもらうのが結構難しい。当然人が経験したことを理解するのも難しい。

七十歳を越える私の母はよく昔話をする。話がトツ散らかっている上に、人の名前が説明なしでたくさん出てくるので分かりにくいことおびただしいのだが、その中でも比較的よく分かる天草での少女時代の逸話にこういうものがある。

あるとき小学生低学年の母に同級生がノートを買って来てくれるように頼んだ。母の祖父は小さな文房具店を経営しており、この同級生は母に頼めばノートが只で手に入るかもしれないという下心があったのである。人のいい(自己申告)母は「いいよ」と気軽に引き受けた。翌朝その頼まれ事を思い出した母は遅刻を気にしながらも走って店まで行きノートを貰おうとした。ところが祖父は、すぐにはノートをくれず、母親の靴に名前が書いていないのを見て「また、名前も書かずに靴を履かせとる！」と言い、祖母に「おい、墨と硯を持ってこい」と命じて、ゆっくり墨を磨り始めた。遅刻が気になりながらも何も言えず心の中で「早く、早く」と念じるばかりの母の目の前で、祖父は墨を摺る手を時々休めては、近くにおいてあった紙でゆっくり洩をかみ、紙を開いて見て捨ててまた摺り始める。じれったさに足踏みをしながら待つ時間のどれほど長かったことか、と母は締めくくる。

もう60年以上も前の話で、そのころの天草の学校や家庭の様子は想像するし

かないし、よく分からないことも多いのだが、何度も聞かされたこの話はその度に面白く聞き笑い共感する。これは舞台設定こそ違え、同じような状況を自分も経験している、つまりその「じれったさ」は自分にも経験があるからだろう。

共通したあるいはよく似た経験があると、相互理解が格段に楽になる。逆にこれがないと頭では理解出来ても実感することが難しい。もちろん人間の経験は各々異なっている。だからこそ、分かってもらおう伝えようとする努力と互いのことを思いやる想像力が大事なのだが、それにしても共通経験のあるなしで理解のしやすさと理解の深さが全く違ってくる。だから同じような経験をしている日常的なことは理解されやすいが、非日常的なことはなかなか難しい。被災者や戦争経験者は、きっと歯がゆい思いをしていることと思う。

私が最近歯がゆい思いをすることの一つに、ECAP での英語の使われ方のことがある。英語教師として日頃 Native Speaker の英語を聞いたり、Native Speaker と話をしたりする機会は結構あるが、Non-Native Speaker 同士でまとまった時間英語で話をする機会はほとんどない。この英語による Non-Native Speaker 同士のコミュニケーションは ECAP の大きな売り物の一つなのだが、これがなかなか分かってもらいにくいのである。もちろん理屈としてはその大切さは理解してもらえとは思っているのだが、Native Speaker と話した時にも日本人同士で英語で話した時にも感じなかった、妙に自由な感覚や英語に対する感じ方の変化がどれほど伝わっているかということ、大変心もとないのである。例えばある参加者は「英語が（単なる学校の科目ではなく）意思疎通のための道具だ」と実感したと言う。参加した私はもちろん実感を持って共感するのだが、経験のない人にその実感を伝えるのは非情に難しい。

竹島問題や教科書問題で揺れる日韓関係だが、韓国の英語の先生方 10 人が ECAP のために来日することが決まった。両国の英語教育や文化について英語で語りあう充実した 3 日間になる。色々な意味で日本人英語教師にはぜひ体験してほしいプログラムだ。皆さんも是非参加して、一緒に歯がゆくなりましょう。

アメリカ現代用語の基礎知識（１）

Concurrent Enrollment

井川 好二

訪れる度に新しい発見があるのが、アメリカ合衆国である。住んだこともあるし、数えきれないほど訪問しているのだが、いつ行っても新鮮。広く大きな国なので、外国人が全てを見たり分かった気になったりするのには、鳥澁がましい、と云うこともある。そして、もともと「新しいモノ好き」なお国柄と云うこともあって、短いスパンでどんどん変化していくのも、アメリカなのである。

しかし、一方、変わらないアメリカも存在する。「アメリカの伝統」と云うか、「歴史的アメリカ」と云うか。だから、上の議論を正確に云えば、（１）不動のアメリカと（２）変化のアメリカ、の両方が併存していて、その変わらないものと変わっていくものの、組み合わせが、毎回新しく、印象がいつも新鮮なのがアメリカ社会と云えるのかも知れない。

言葉にできない事象は、世の中には存在しないと仮定するなら、言葉が時代のすべてを表し、定義する。社会の古さも新しさも言葉に現れている。今回の3週間に渡るソルトレーク・シティ/ニューヨーク・シティ行（2005年2~3月）でも、私にとって、新発見の、モノや考えにたくさんお目にかかった。そのなかから、面白そうなモノやアイデアをあらわす言葉をいくつかを取り上げる。それらを紹介しつつ、少しくアメリカ社会を考え、翻って日本社会を眺めてみたい。

しかし、ここで紹介する言葉は、私にとって「新しい」と思える言葉であって、なかには、もうずっと前から存在しているものをあるので、そのつもりでお読み頂きたいのは云うまでもない。

その「現代アメリカ用語」シリーズの一回目として、教育の分野から始める。

高校在学中から大学や短大の単位を取得できるプログラムが、最近できて、今回私の訪問したユタ州¹あたりでは、結構人気があるらしい。Concurrent Enrollment と云うのである。

アメリカに着いて間もない二月のある水曜日、今回お世話になった州立ソルトレーク・コミュニティ・カレッジ(SLCC)の国際担当副学長の Helen Cox 教授に連れられて、ユタ州の教育省や評議員(Regent²)が主催で、ユタ州の高等教育機関の教職員のために開かれる「高等教育担当者研修 Conference」に参加した。知事も出席の予定だったが、州議会の議事が切迫しているとのことで、秘書官のみ出席。その時のテーマの一つが、この Concurrent Enrollment.

Concurrent³とは、「同時に」と云う意味。「共に」と云う意味の接頭辞“con-⁴”と、「今の」と云う意味の“current⁵”との合成語。一方、enrollment⁶は、授業などへの「(履修)登録」を意味している。合わせて、「同時登録」。つまり、高校生が、大学レベルの授業を登録・履修することによって、高校・大学両方の単位を取得できるシステムなのである。革命的とも思えるほど大胆な制度であるが、ユタ州の教育省の HP⁷から、このプログラムの目的を引用する：

The purpose of concurrent enrollment is to provide a challenging college-level and productive secondary school⁸ experience, particularly in

¹ ユタ【Utah】アメリカ合衆国西部、山岳地方の州。モルモン教徒が州民の多数を占める。州都ソルトレークシティ。[広辞苑第五版図版付き]

² 《米カナダ》(州立の大学教育機関の)理事,評議員 [プログレッシブ英和中辞典(小学館)提供: [JapanKnowledge](http://JapanKnowledge.com)]

³ 同時(発生)の, 伴う with ; 共同に作用する, 協力の; 兼務の; [リーダーズ+プラスV2]

⁴ pref 「共に」「全く」の意《b, p, m の前》. l の前では col , r の前では cor , その他の音の前では con となる.[リーダーズ+プラスV2]

⁵ 1 現在通用[流布]している, 現行の, 現用の; 時間が 今の, この; 最新の; 【電算】カレントの, 現用の, 今いる.[リーダーズ+プラスV2]

⁶ n 記載; 登録, 入隊, 入学; 登録簿, 登録者名簿; 登録(者)数.[リーダーズ+プラスV2]

⁷ <http://www.utah.gov/government/agencylist.html>

⁸ secondary school 中等学校《grammar school, public school, high school などの総称》.[リーダーズ+プラスV2]

the senior year⁹, and to provide transition courses to be applied to post-secondary education.

高校から大学への進学を、スムーズに行えるようにするためのシステムであることがわかる。高校教育も大学教育も、同時に活性化することも狙いのひとつであろう。しかし、こういう新システムがつくられ、ユタ州の高校生の中で結構人気があるということは、従来のやり方では、スムーズに大学進学できない層が多いと云うことなのだろうか。あるいは、高校や大学の授業が、うまく行っていない場合が多いのだろうか。

訪問した州立ソルトレーク・コミュニティ・カレッジ(SLCC)の HP¹⁰で、この Concurrent Enrollment の中身をもう少し詳しくみると：

Concurrent enrollment classes are college level classes offered to high school students for both high school and college credit¹¹. Concurrent enrollment students are enrolled for classes at both the high school and the College. Students register¹² through their high school instructor. Instructors are responsible for registering their students each term. While students earn high school credit, they also earn college credit, therefore reducing duplicated¹³ classes. SLCC college credits are recorded on a permanent college record and transcript¹⁴. High schools are responsible for recording high school credits. Both vocational and general education¹⁵ classes may be offered. Instructors are qualified high school faculty who meet the hiring SLCC requirements for adjunct faculty¹⁶. Courses taught at the high school are the same courses taught on the SLCC site. Instructor qualifications, syllabi, assignments, textbooks, exams and grading requirements are equivalent¹⁷.

資格のある高校の先生が、高校の教室で高校生を対象に、大学レベルの授業を

⁹ 《高校の》 最高学年の[リーダーズ+ プラスV 2]

¹⁰ <http://www.slcc.edu/schools/cce/ce/>

¹¹ 《ある科目の》 履修証明, 履修単位[リーダーズ+ プラスV 2]

¹² 入学[入会, 聴講]手続きをとる, 登録する for, in [リーダーズ+ プラスV 2]

¹³ 繰り返す, 再現する [リーダーズ+ プラスV 2]

¹⁴ 《学校の》 成績証明書[リーダーズ+ プラスV 2]

¹⁵ 《専門教育に対する》 一般教育, 普通教育.[リーダーズ+ プラスV 2]

¹⁶ cf. adjunct professor 《学外の他機関に本務をもつ》 非常勤教授, 特任教授.
[リーダーズ英和辞典第2版]

¹⁷ 同等の, 同価値[量]の, 同じ力の, 同意義の[リーダーズ+ プラスV 2]

して、受講者には高校と大学の両方の単位が与えられる。それに、これが高校授業の一部として提供されるとすれば、生徒や家族にとって更に嬉しいことに、授業料はいらぬことになる。つまり、アメリカでは、高校教育までが義務教育であり、義務教育は全額無料と云うのが、アメリカの大原則なのである。だから、大学の単位がタダで貰える。

「なかなか、思いきった制度ですね」

「そうでしょ。去年ソルトレーク・シティの高校を卒業した生徒で、この制度を熱心に利用したのがいたの。彼女、高校卒業と同時に、コミュニティ・カレッジ¹⁸も卒業しちゃったのよね」

「両方の単位を、高校在学中に取っちゃった！」

「そう。確か、ベトナム系の生徒だったわ」

「すごいですね！日本じゃ考えられない」

「高校卒業後すぐに、U of U¹⁹の3年次に編入したのよ」

「すごい！」

ハーバード大学出身の女性で、なかなか切れ者の Cox 教授は説明する。もともと白人の比率が高いユタ州にも、最近ベトナム系の住民やメキシコ系の住民が増えている。数は少ないが、黒人やネイティブ・アメリカン²⁰もいる。

「ああ、つまり、Concurrent Enrollment って、少数民族対策ですか？」

「それだけじゃないけど、そういう面も、確かにあるわね」

「日本でもアメリカでも、高卒じゃ、あまり良い仕事、ないですからね。」

「そういうことよね」

「せめて、2年制のコミュニティ・カレッジくらいは卒業しないと」

「SLCC の学生って、その家庭から、初めて大学に通っている学生が多いのよね」

¹⁸ A junior college without residential facilities that is often funded by the government. [AHD3rd]

¹⁹ University of Utah 250 Student Services Building, Salt Lake City, UT 84112; Public; 22,040 [AHD3rd]

²⁰ Native American n. A member of any of the aboriginal peoples of the Western Hemisphere. The ancestors of the Native Americans are generally considered to have entered the Americas from Asia by way of the Bering Strait sometime during the late glacial epoch. Also called American Indian, Amerindian, Indian. [AHD3rd]

「ええ？」

「だから、兄弟姉妹も、両親も、祖父母も、大学にいったこと。私たちは、Firestcomer って呼んでるけど」

「そういう生徒や家庭にとって、Concurrent Enrollment って良いですね」

なかなか興味深いシステムである。日本でも、近い将来どこかの「教育特区」で、実施されても、おかしくない制度である。

しかし、高校、大学、生徒、家庭のどこにとっても、結構尽くめ、win-win²¹な制度のように思える Concurrent Enrollment だが、問題もあるようである。今回は、そのための Conference でもあったようで、問題は「教育の質」に尽きる。

「高校の先生が、高校の教室で、高校生相手に、大学レベルの授業。どこかに無理があるような・・・」

「そう。その授業の質が、問題よね」

「なるほど」

「ホントに大学レベルの授業ができているのか、よね」

「難しいですね。高校による？」

「そう。Concurrent Enrollment の授業は、質的に劣っているのか？もし、そうだとすれば、それをどうやって防ぐのか？と云うのが、今日のテーマの一つなの」

なかなか、野心的な試みである Concurrent Enrollment であるが、問題点も抱えている。以前に ACROSS や e-dream-s でも、調査研究を行った²²Charter School²²も、未来志向の意欲的な制度であり、大いに学ぶところがあったが、Concurrent

²¹ win win, a. 《俗》どちらにころんでも勝ちの、どちらにとっても有利な、双方[三方]うまくおさまる。[株式会社研究社 リーダーズ+プラス V2]

²² チャータースクール (charter school) [教育・学校]

アメリカで企業やNPOが自治体と契約し、公立学校の運営を請け負う特別認可校。1990年代初頭に誕生し、クリントン政権下奨励され、現在約2000校設置されている。家庭からは授業料を徴収せず、自治体からの予算で運営され、効率的運営、特色あるカリキュラム、親や地域住民の協力などによって成果をあげている。日本でも自由な学校を求める父母や教師の関心が高く、教育改革国民会議で提言されたコミュニティ・スクール(別項)構想が、類似の制度として注目される。[現代用語の基礎知識 2003]

Enrollment も、刺激的である。アメリカ社会は、こういうとんでもない制度を平気で生み出して、どんどん実験し、うまくいかなければ、どうやったらうまく行くかに、知恵を出し合うのである。その過去や現状に囚われず、失敗をおそれず、新しい未来を創り出す姿勢を見習うべきであろう。

だから、アメリカ社会は、面白いのである。(Saturday, April 9, 2005)

いま、何時ですか？

中 川 房 代

タイトルに書いたのは、韓国の大学修学能力試験（全国一斉の大学入試、日本のセンター試験のようなもの）2003年の「日本語」の問題です。正答率30%だった問題です。

A：いま何時ですか。

B：12時5分まえです。

A：あ、よかった。まだやくそくの時間の5分まえですね。

今の時刻を下の(1)～(5)から選びなさい。

(1)11時50分 (2)11時55分 (3)12時 (4)12時5分 (5)12時10分

少し前のことになりますが、3月17日に「韓国の中高等教育機関における日本語教育の実態」と題する講演&座談会のイベント（主催：大阪YMCA日本語学校）に、辻代表理事、新谷さんと参加してきました。

e-dream-sは、2003年から2年間にわたって韓国の先生との日韓相互理解プロジェクト「ECAP（イーキャップ）」を行ってきており、今後も続けていく予定です。昨年のECAP 2004で、私のグループは「韓国における日本語教育」についてのフィールドワークをしたこともあり、日本語教育に興味を持っていました。

講演者の朴且煥(Park Cha Hwan)先生は、ソウルの実業高校で日本語を教えながら、日本語教育の研究会を立ち上げ（現在、韓国ソウル日本語教育研究会の副会長）、教科書の編纂にも携わるなど熱心に活動されている先生です。

講演で印象に残ったことを挙げてみると、

- ・ 韓国の高校では、第2外国語として「日本語」を選択する生徒が増えている。
- ・ 学習者が大幅に減少しているドイツ語、フランス語教員の過員対策として、日本語免許の取得を推進している。（1年間約1.305時間の研修で日本語教員免許取得）
- ・ 韓国では、今までは、学会は大学の先生、研究会は小中高の先生と分かれていたが、最近は大学の先生が研究会に出席するなど交流が進んできた。
- ・ 中学校用の日本語の教科書は国定、一般の高校用は検定制。
- ・ 教科書・教材の内容は、コミュニケーション能力をつけるためのもの、ビデオやインターネットなどを使ったものも増えてきている。
- ・ 日本文化の特徴の理解を進める内容も増えてきた。

モンゴルでロシア語教員に英語の研修を受けさせて英語教員を増やしている話を読んだことがあるが、同じ「外国語」というだけで、1年やそこらの研修で他の外国語を教えることができるのか、疑問でもあり気の毒な気がします。韓国でも反発が大きかったとか。コミュニケーション、文化、などアジアの語学教育の流れは似ているのかもしれませんが。

講演は、韓国の日本語教育の現状などについてのお話でしたが、最後に、少しだけでしたが、先生自身も、どうすれば生徒が授業や日本語（学習）に興味を持ってくれるのか、毎日悩みながら教材を考えているとの話もして下さいました。私は、朴先生の教師としての話や NPO（日韓・アジア教育文化センター）の活動の話をもっと聞いてみたいと感じました。

主催者のご配慮で、講演会の中で、辻代表理事が「教育用写真サイト@aglance・オンデマンド日本写真」と ECAP の紹介をする時間を頂き、「A Rainbow over the Strait」の一部を配布して宣伝しました。（感謝）また、講演会の後、朴先生に「ECAP」について話をしたところ、興味を持って下さいました。日本での研修の期間は8月末までだそうです。また、連絡をとって学習会などにも参加して頂きたいと思っています。

米国で学んだ3つの ships

塚本美紀

3月の下旬、米国ワシントンDCとミズーリ州のセントチャールズという町に2週間滞在した。今年度、米国の高校と共同で行う環境問題のプロジェクトの準備のためである。このプロジェクトは、日米教育委員会フルブライトメモリアル基金(<http://www.fulbrightmemorialfund.jp>)が開始したマスターティチャープログラムの中で実施されるもので、日米の学校が1年にわたりパートナーを組み、環境問題についての課題を共同で研究し、インターネットを使ってビデオ会議を行うものである。私の勤務する福岡県立ひびき高等学校には、「環境情報」という学校設定科目があり、そこで実施するのに適したプロジェクトだと思い、今回始めてこのプログラムに応募し、参加することになった。今年度は、小学校から高等学校まで、日米それぞれ約30校が参加している。

3月に実施された「春期米国研修」は、ワシントンで昆虫や土壌、植物などについての研修を受け、その後パートナー校のある町へ移動し、そこで今年一年間の計画をたてるというものである。2週間という限られた時間であったが、私はこの研修の中で、プロジェクトを行うのに大切な3つの ships を学んだ。

一つ目の ship は、partnership である。我々のパートナー校は、大リーグ、カージナルスの本拠地のあるミズーリ州セントルイスから車で30分ほどの場所にあるセントチャールズ高校である。その学校の若い生物の女性教師、ジョイさんが我々のパートナーである。ワシントンからセントチャールズまで、2週間の間、朝早くから夜遅くまでずっと一緒に過ごしたので、「同じ釜の飯を食う仲間」のような意識が生まれた。これから一年間、遠く離れた地で共同のプロジェクトを行うのである。Partnership なくしては、やっていけない。今回の米国研修では、その partnership を養うため、いっしょに活動する企画が多く取り入れられていて、我々の partnership を作るのに大いに役立った。そして、これからいっしょに面白いことをやっていくのだという意欲が大いに高まったのである。

二つ目の ship は、leadership である。今回、leadership を発揮する人に多くお会

いしたが、その中でも、セントチャールズ市長のことがとても印象に残っている。彼女は、黒いパンツスーツをきりりと着こなした 50 代の女性で、大学でも教鞭をとっているということであった。田舎町であるセントチャールズでは、子供が国際的になる機会がなかなかないということで、今回の我々のプロジェクトに大いに興味をお持ちで、日米双方の教員にいろいろと質問された。市庁舎の中を案内しながら、議会のこと、マスコミのこと、市民の市政への参加のこと、市長として大切に思っていることなどを次々と話して下さった。我々が市長室を立ち去る際、同席していた中学校の校長先生と学校の問題について少し立ち話していたのが印象的であった。その校長とは、教育問題についてよく話す機会があるようで、市長が教育問題に直接関わっている様子が伺われた。私は、彼女の仕事のほんの一部分を垣間見たに過ぎないが、彼女のリーダーシップで市政がうまく運営されているように感じた。私がこれから運営するのは、市政などという大きなものではないが、このマスターティチャープログラムが校内で円滑に実施できるよう MTP 委員会を発足させようと考えている。生徒にとっても、教員にとっても、成長の機会が多く包括されたこのプログラムを今年度だけでなく、継続的に実施する基盤を、MTP 委員会を発足させることで作っていきたいと思う。

三つ目の ship は、entertainership である。これは、今回の研修で出会ったある人物のことを考えている時、頭に浮かんだ私の造語である。その人物は、ウィスコンシン大学の W 教授で、今回の研修で我々に植物についてのワークショップを行ってくれた人である。マスターティチャープログラムでは、日米の学校で、ファストプラントという植物を種から育て、その生育の様子を比較することになっている。その指導の仕方を、実物を使いながら教えて下さった。教室に入ると、帽子を被り、エプロンをした、ガーデニングショップのおじさんといった風情の人が、各テーブルの実験の道具をそろえたりしていた。その人物が、NASA の研究もしているという高名な学者である W 教授だということに驚いた。まず、その衣装にいつもと違うことが始まるのだという予感を感じ、そしてテーブルの上にあるいろんな実験道具に、これから何が始まるのだろうかという期待が高まった。各参加者の前にあるテーブルの上には、何に使うのかよくわからない手作りの道具や、小さな書類のたくさん入った封筒があり、多分入念に準備されたものだと思うが、なんとも自然にそれら一つ一つを使いながら、実際に生徒に指導する方法を、我々に体験させながら教えて下さった。我々は、子供に戻ったように、W 教授の言われるまま、夢中でペットボトルの

キャップで作った小さな植木鉢の中に土を入れたり、そこに種を蒔いたりした。我々を夢中にさせる小さなしかけのたくさんあったこのワークショップは、90分という時間があったという間に過ぎ、私も早く日本に戻って、生徒といっしょにこの作業をやりたいという気持ちになった。他の参加者もみな、同じような感想を持っていた。昨年度の参加者の一人は、W教授の虜になり、夏休みに行われたウィスコンシン大学の研修に参加したということである。面白いことが起こる場所には人が集まるのだと思う。私もこのプログラムを面白いことの起こる場所に、学校を少しでも面白い場所にできたらと思った。たった90分のワークショップだったが、W教授は、そんな大それた思いを持ちたくなる「わくわく」をたくさん生じさせる entertainer だった。

今朝、庭に出ると、冬の間淋しかった花壇に、ハーブの新芽がびっしりと生えていた。それと同じように、私の中にも、私の学校の中にも、新しい芽が、今、たくさん生まれようとしている。今回の米国研修で学んだ3つの ships を大切に、今、生まれつつある芽をしっかりと育てていきたいと思う。

エイゴの夢は夜ひらく？

仙崎 裕右

4月1日から e-dream-s のサーバが移転し、「さくらインターネット」という会社のサーバを使うようになりました。この間の経緯について、私が携わったのは一部分に過ぎないのですが、実務面では動くこともあったので説明させていただきます。

これまでは別の会社のサーバの一部を「e-dream-s」として利用していたのですが、財政難もあり、使用料が大幅に安い「さくら」のサーバを辻先生の尽力で使用することになりました。大きく変わるのは2つ。ホームページと電子メールです。ホームページのほうは、これまでのデータを新しいサーバに移して（コピーして）、4月からは「<http://www.e-dream-s.org/>」にアクセスする

と「さくら」のサーバ内の e-dream-s のホームページにつながるようにするので、この、 の書き換え作業が業者との行き違いもあり、4月2日から3日間、ホームページを見ることができませんでした。しかし、これは掲示板を含め、5日以降復旧しております。次にメールの方ですが、3月末に新アドレス(~@e-dream-s.sakura.ne.jp)を発行し、これまで「e-dream-s」のメールアドレス(~@e-dream-s.org)を使っていた方にいったんアドレスを変更、再設定していただきました。これも、案内がギリギリになってしまい、うまくいかなかったり、時期を過ぎてしまい、メールを見ることができなくなった方がいたりで、まだ完全に全員の移管作業が済んでいないのですが、ほぼ落ち着いた状況です。

さて、ここから突如として文体が変わるのだが、ある一定の年齢以上の方々には、なんとも刺激的？なタイトルである。「赤く咲くのはケシの花 白く咲くのは百合の花～」と歌いたくなってしまう方もいるかもしれない。言わずもがなではあるが、藤圭子²³の「圭子の夢は夜ひらく」のパロディである。筆者の年齢も知れる・・・といたい所だが、この曲の発売は1970年4月。実はまだ私は生まれていないので悪しからず。

上で説明してきた、メールアドレスの発行・設定業務で、3月30日に案内メールを送ったのであるが、この日は23時になってもどなたも設定をいじった形跡がなく、旧サーバの容量の関係で、私のメールすら届かない方も半分近くおられた。「ヤバイな、あと1日しかないのに・・・」と焦る私。しかし、この時間から事態は一斉に動き出すのである。藤澤先生からのお電話を皮切りに、25時半ぐらいまで、質問メールが届く届く・・・。携帯に転送しているので私の携帯は2時近くまで振動し続けたのである。また、サーバがいっぱいになったので受け付けなかったメールも、断続的に送り直していった結果、23時過ぎから26時までにお1人を除いてすべての方に行き渡ったのであった。

3月末の春休み期間だから、そんなに忙しくないかもしれない(分掌によってはより忙

しいかも知れませんが)とはいえ、夜中に、これだけ多くの方々が起きて動いておられるのか、と驚いた(失礼ながら、私なんかよりはるかに年配の方でも関係なしに。。)。学校の仕事を遅くまでして、他の人たちの1日が終わろうと

²³ 藤圭子(ふじ・けいこ): 1951年岩手県生まれ。1969年「新宿の女」でデビュー。「圭子の夢は夜ひらく」は発売枚数76万枚の大ヒット。社会現象にまでなったという。1979年突如引退。渡米。筆者にとっては宇多田ヒカルの母という方がなじみがあるのであるが。。。

する夜、e-dream-s は一斉に動き出す。まさに「英語の夢は夜ひらく」のである。そのバイタリティたるや、恐るべし、である。

最後に、また文体が変わりますが、改めてご案内を。これまでは「e-dream-s」アドレスをお持ちの方にご案内をしておりましたが、今度は今までアドレスをお持ちでなかった方にも呼びかけたいと思います。WEBメールとして使える（～@e-dream-s.sakura.ne.jpのみ）

他、自宅や職場に（複数アドレスに）転送できたり、ソフトを設定してそのまま使ったり、思ったよりも使い勝手はいいと思いますので、ご希望の方は「senzaki@e-dream-s.org」までお申し付けください。また、ホームページのほうも（確か昨年は大々的に更新する、なんて怪気炎をあげていましたが）細々と更新しておりますので見てやってください。

編集後記

「英語でメールを書いたら、お互いの英語力はきっと向上するだろうから、続けましょう！」と昨夏の ECAP 韓国で知り合った英語教師の Cho さんとメールのやりとりをしてきたが、ここしばらく、途切れてしまっている。Cho さんは「私たちが怒ることは二つだけ、独島と従軍慰安婦のことです。日本人がその島のことを持ち出さなければ、私たちはそのことは話しません。」と以前書いていたのだ。そのことが引っかかり、何をどう書こうかと思いついていないうちに2ヶ月近く経ってしまった。この夏、韓国の先生が ECAP で来日されるという嬉しい知らせ。自分の考えをきちんと英語で伝えられるよう勉強しなければならない。ぐずぐずしていないで Cho さんにメールを書こう。（岡田かおる）